

CSRマネジメントシステムとガバナンス

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、CSR活動を円滑に推進するため、グループで意思統一を図っています。また、健全な事業活動を継続するため、ガバナンス体制の整備を行っています。

CSRの考え方

当社は、企業理念の中に「豊かな社会の発展に貢献する」とうたわれている通り、創立当初から企業として社会的責任を果たすための取り組みを行ってきました。業界他社に先がけた地球環境保全への取り組み、長年にわたる地域貢献など、多くの活動が定着したものとなっています。

CSR推進体制

経営戦略会議の下部組織として、本社機能に即した委員会を設置し、企業価値向上に向けた審議機関として活動しています。具体的な活動として、サプライヤーなどを含めた「ものづくり革新委員会」、人財の育成や雇用などを検討する「人事政策委員会」、リスクマネジメントを含めたCSR推進活動全般をとりまとめる「CSR推進委員会」、特許などの知的財産をとりまとめる「知財戦略推進委員会」、地球環境保全を推進する「地球環境対策委員会」があり、それぞれの委員会を中心に当社グループのCSR活動を体系的に推進しています。

■経営戦略会議と各委員会



CSR推進活動

経営戦略会議の直下に置かれた委員会はそれぞれ、幅広い取り組みを行うため、関連する部門長をメンバーに選出し、活動の充実に向けた活発な討議を行っています。それぞれの委員会で討議された活動方針に基づき、担当部門が中心となって、各事業所やグループ会社などとも連携を図りながら推進しています。また地方行政やNPO団体、サプライヤーとも協力しながら、幅広い活動を展開しています。

コーポレート・ガバナンス

意思決定機関として株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員体制を採用し、2014

年6月27日時点で、取締役は7名となっています。審議機関としては、経営戦略会議、各委員会があります。特に経営戦略会議は少数で意見交換できるように取締役、常勤監査役および各生産本部、事業本部の部長で構成しています。監査機関として監査役会は、2014年6月27日現在で、5名の監査役のうち、3名の社外監査役が就任しています。内部統制の仕組みについては、内部監査部を設置し、業務の適正性と効率性の観点から内部監査体制の充実を図っています。2008年度より施行された金融商品取引法に対応し、グループ全体で内部監査体制を強化し、運用しています。また、リスク管理体制の整備・充実に努めるとともに、顧問弁護士からは、顧問契約に基づき、必要に応じたアドバイスを受けています。

CSR推進委員長メッセージ

永続的な成長に向け、
質の高い積極的なCSR活動に取り組んでまいります



CSR推進委員長 取締役専務執行役員 嘉戸 廣之

ニッパツグループは社訓と企業理念を経営方針の基本としており、「豊かな社会の発展に貢献する」ことが使命であると考えております。

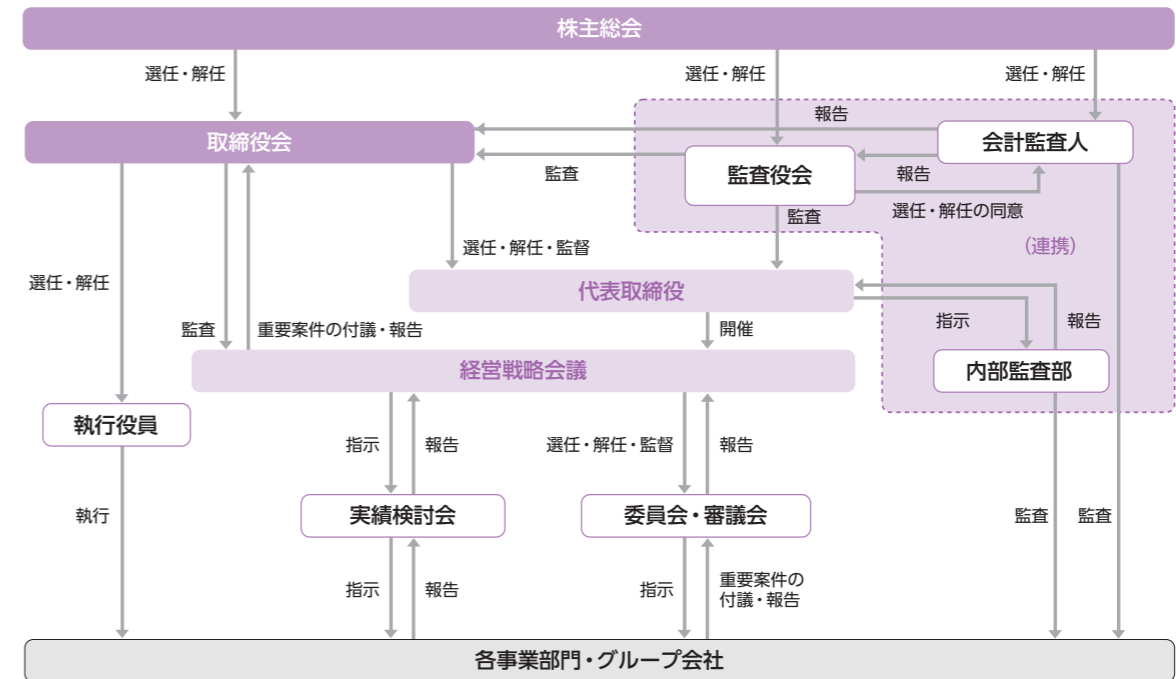
自動車、情報通信、産業・生活の各分野で「なくてはならないキーパーツ」を提供し、お客様、株主・投資家、サプライヤー、地域社会などのステークホルダーの皆様から理解され信頼される企業となり、豊かな社会の発展に貢献することがニッパツグループのCSR活動だと考えています。

また環境保全においては、「地球環境行動指針」を作成し、省

資源・省エネルギーや廃棄物削減などの取り組むべき重点項目を抽出し、環境負荷を軽減するためにグローバルでの活動に取り組んでおります。

当社が事業活動を行っている地域において、またステークホルダーの皆様からさらなるご理解と信頼していただける関係を築くために、グローバルでのCSR活動を推進し、ガバナンス強化に取り組んでまいります。これからもグループをあげて永続的な成長に向け、あらゆる活動のさらなる充実を図りながら積極的に取り組んでいきます。

■ガバナンス体制図



リスクマネジメント

リスク管理体制を整備するとともに、あらゆるリスクの対応に取り組んでいます。

BCP(事業継続計画)

地震、津波、洪水などの自然災害、流行病、テロ、火災など、様々なリスク(危機)が存在し、企業はこれらの危機に対応し、事業を継続的に進んでいく使命があります。

当社は、当社グループのリスク全般を管理するためCSR推進委員会を設置し、不測の事態に対応するための危機管理体制を構築しています。70項目あまりの具体的なリスク事象を定め、各部門が主体的に取り組むリスクを明示しています。また、CSR推進委員会の傘下にBCP(事業継続計画)、機密情報管理の各分科会を置き、緊急時の的確な対応のための組織・ルールづくりなど、体制整備の活動を行っています。

リスク発生時には、CSR推進委員会を臨時に召集し、その指揮のもとに所管部門および関係部門が一体となって迅速な対応を行う体制をとっています。

2011年からは国内グループ会社も参加する大地震発生時の初動訓練ならびに復旧立ち上げ訓練を実施しています。これら訓練の反省に基づき、より実践に即した危機対応ができるようBCPや各種マニュアルの改訂を行い、危機管理体制のステップアップを進めています。

オペレーショナル・リスクマネジメント

企業の抱えるリスクは、災害などの事業継続が困難となるような危機的リスクだけでなく、企業活動を遂行する上での日常の業務に潜むリスクもあります。一例をあげると、従業員の離職率が高くなることによる業務効率の低下、契約書類の不備に起因した契約不履行による損害賠償、法解釈の間違いに起因した意図せぬ法令違反による罰金などです。これらのオペレーショナル・リスクは、企業にとってボディーローのように効き、次第に業績の悪化、弱体化をまねく恐れがあります。

当社では、2010年から海外・国内グループ会社におけるオペレーショナル・リスクに対する実態調査を始め、リスクの評価、優先課題の把握、重点的な対策立案を行っています。また、自主点検の手法を導入し、グループ各社が自社による定期的、継続的なモニタリングを行うことで、リスクマネジメントのPDCAサイクルを回せるような体制にすることを目標に活動しています。

オペレーショナル・リスクは、随所に潜在していますので、今後も各関連部署ごとにリスクの早期発見、早期対策立案を心がけ、当社グループの業績向上に貢献していきます。

コンプライアンス

当社は、コンプライアンスを、法令順守はもちろん、社会の様々な要求に誠実に応えることととらえ、経営の大きな柱の一つとしています。コンプライアンス経営実現のため、コンプライアンスの最高責任者である社長のもと、全部門を統括する推進責任者および各部門の指導責任者を配置したコンプライアンス体制をとっています。

当社は、事業活動のそれぞれの局面において順守すべき具体的な事項と社会的要求を「ニッパツ社員の行動指針」として定め、従業員一人ひとりがコンプライアンスに則って行動するよう努めています。また、社内通報・相談の窓口として、コンプライアンスホットラインを設け、従業員がいつでも内部通報を行うことができる仕組みを整えています。

そして、「ニッパツ社員の行動指針」やコンプライアンス体制に対する理解を浸透させるために、新入社員、管理職など各階層を対象とした定期研修や、グループ会社各社で研修会を開催し、ニッパツグループ全体のコンプライアンスに対する意識の向上を図っています。

情報セキュリティの確保

当社およびグループ会社各社は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー基本方針」に基づき、その対策基準や実施手順を定め、確実に管理・運用を行うことにより、お客様やサプライヤーとの取引における情報の流出防止など、情報資産の保護に努めています。

このポリシーは、当社およびグループ会社の役員、従業員、外部委託業者の従業員(派遣社員、アルバイトを含む)に適用されます。保有する情報資産の機密度や内容に応じて、重要度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などをグループ全体で予防しています。



新入社員を中心とした従業員教育でレベルアップ向上に努める

VOICE

実効性のある事業継続マネジメント態勢の構築



CSR部
筒井 一樹

当社は、東日本大震災を教訓として、想定外の事態を最小限にするためにBCPの改定に取り組むとともに、マネジメント態勢の構築を目指しています。

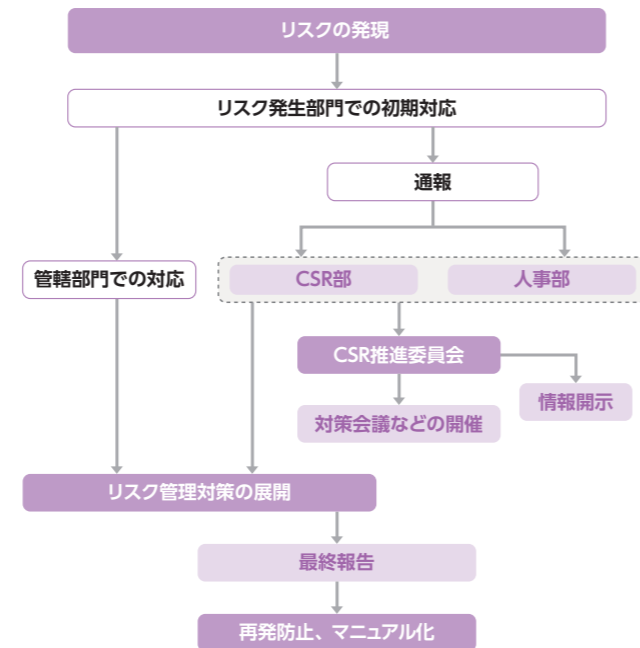
具体的には、設備が被害を受けた場合、サプライヤーが被災した場合、従業員が被害を受けた場合などにおいて、いかに事業を継続していくかを、皆で知恵を出し合い、一体となって対策を検討しています。

また計画を策定するだけでなく、演習を実施することにより、皆の意識を向上させ、BCPの問題点を洗い出し、改善に努めています。

さらに、経営層を含めたマネジメントレビューを行うことにより、PDCAサイクルを回しながら、継続的なBCPの検証と改善を実施しています。

今後、国内・海外を問わず、こうした取り組みを、ニッパツグループ全社に展開し、BCPのマネジメント定着につなげていきます。

■危機管理体制



VOICE

継続的なコンプライアンスへの意識向上が必要



CSR部
渡邊 洋一

コンプライアンスを実現するためには、従業員一人ひとりの意識向上が不可欠です。どのような行動がコンプライアンス違反になるのか、という意識を日々の業務の中で持つことが、コンプライアンス経営の土台になると考えています。

コンプライアンスに対する意識の醸成には、継続的な取り組みが必要です。CSR部では、身近なテーマを題材にしたコンプライアンス通信の発信や、新入社員、管理職など階層別や、営業職、技術職などの職種別の定期研修の実施を通して、コンプライアンスに関する情報発信と意識の向上に努めています。

グローバル化が進み、国内だけでなく、海外の法令や社会の要求に応えることも求められるようになってきた中で、国内・海外を問わず、当社グループ会社の従業員全員が、コンプライアンス意識を高めることができるよう、継続的な取り組みを行っています。

VOICE

グループ全体への定着を進める



情報システム部 主査
伊藤 陽介

情報セキュリティは、お客様をはじめとする、ステークホルダーの皆様からの信頼を得るために必要不可欠であるだけでなく、安全・安心な社会生活を支えるための重要な基盤であると考えています。当社は「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー基本方針」に基づき、情報資産を保護しながらも、業務を円滑に遂行するための基本的な考え方を定め、関連規定の整備、従業員への教育、管理状況の監査と継続的な見直しなど、情報セキュリティの確保とさらなる強化に取り組んでいます。

また、情報システム部企画グループは、IT統制、システム監査、情報セキュリティを含むITリスクの評価と対応を着実に実施し、ニッパツグループ全体へのITガバナンスの構築・定着を進めています。